

## 第 60 回名古屋高速道路公社運営会議議事録（要旨）

● 日 時：令和 3 年 6 月 15 日（火） 10:30～11:30

● 場 所：W e b 会議

《報道公開》名古屋高速道路公社 本社黒川ビル 2 階大会議室

● 出席者

会長	愛知県知事	大村	秀章		
委員	名古屋市長	河村	たかし		
〃	東海財務局長	水口	純		
〃	中部地方整備局長	堀田	治	(代理) 道路部長	松居 茂久
〃	名古屋商工会議所会頭	山本	亜土	(代理) 専務理事	内田 吉彦
〃	名古屋銀行協会会長	中村	昭彦	(代理) 専務理事	野原 強
〃	名古屋高速道路公社理事長	新開	輝夫		

● 議事

- (1) 名古屋高速道路の現状
- (2) 新たな料金への移行状況
- (3) 令和 3 年度予算の概要
- (4) 中期経営計画（2019-2021）の進捗状況と今年度の取り組み  
主要施策の取り組み状況
- (5) 次期中期経営計画の策定に向けて

● 質疑応答

（河村委員）

- 名古屋高速については値下げを要望していたが、値下げより有効な投資をしていくということで、それはそれでよい。
- 名古屋でいうと地下鉄も高速もこれで大きな計画は終わりかと思われるが、名岐道路やジャンクションなどの話はあり、そういうものをアフターコロナも見据えながら雇用を守っているこの地域で、経済循環も考えながら、しっかりやってほしい。この地域のため、日本のため世界のためということで、ひとつ新しい投資、面白いことができないかどうか、考えてみてほしい。

（新開委員）

- 対距離料金制へ移行し、利用しやすい料金となった。
- 投資については、リニア開業に向けた都心アクセス関連事業を行っており、また名岐道路については名古屋高速道路公社も関わっていくのではないかと考えられる。
- 愛知県・名古屋市の街作りと連携して、都市の持つ面白さを引き出すよう、高速道路の運営を進めていきたいと考えている。

（水口委員）

- 公社においては、5 月の名二環開通と対距離料金制への移行で、利用者の利便性と経済性の向上が期待できる。

- また死亡事故ゼロの日が約2年続いているということで、安全・安心・快適な道路サービスの提供ということで、地域生活を支えていただいている。
- 4月末の経済情勢は、一部に厳しい状況が残るものの、持ち直していると判断し、コロナ禍ではあるが、自動車産業を中心に生産活動は緩やかに回復していると思われる。地域経済がさらに力強く持ち直していくには、経済活動の重要インフラである公社の役割というのは今後ますます重要になってくる。
- 今後は、新たな交通の流れへの対応や逆走・誤進入対策などに、利用者の目線に立った、分かりやすくきめ細やかな対策が必要。
- 次期中期経営計画の話でも触れていたが、DX、カーボンニュートラル、新技術、SDGs等、様々な課題があり、時代の要請に応じた積極的な役割を公社には期待したい。
- それには経営基盤の強化が重要であり、長期的視点にたった健全な経営管理に引き続きご尽力頂きたい。

(堀田委員代理 松居道路部長)

- 名古屋高速道路のネットワークは着実に形が出来てきた。一方で、ネットワークを伸ばしていくだけではなく、津波避難施設等の防災拠点やバスターミナルなど、個々の施設との接続性をより高めてネットワークを上手く活用することにより、プラスアルファの付加価値を作っていくという動きがある。
- 中部地方整備局の方でも、人的支援も含めて、協力しながら、よりよい名古屋圏になるように尽力したいと考えているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

(山本委員代理 内田専務理事)

- 名二環の全面開通で、名古屋高速道路と名古屋周辺の高速道路ネットワークが構築された。コロナの影響もあり、まだ数字には現れてないようだが、産業界としては、定時性、それから利便性の向上による、サプライチェーンの効率化に繋がっていくと考えている。またコロナ収束後の観光の活性化に繋がってくると大変期待をしている。
- 新たな料金体系について、現金車のETCへの移行については、既にETC2.0の購入キャンペーン等をされているが、引き続き、ETCの利用補助に繋がるよう、広報やキャンペーンの継続をお願いしたい。
- また、有人料金所でETCカードを提示する利用者、つまりETC利用証明書が欲しいという利用者だが、このような利用者に対して、ETC利用履歴の発行プリンターのリース対応なども検討していると聞いている。利用者の使用習慣の変更には時間がかかると考えられるので、利用者へのヒアリングを十分に行い、適切な対策を取って頂きたい。
- 次期中期経営計画について、リニアの開業に合わせて、名古屋駅のスーパーターミナル化を図るために、都心アクセスの向上、出入口の増設、渡り線の増設、それから名岐道路についても着実な建設をお願いしたいと考えている。
- 名古屋高速道路を始めとした広域の幹線道路の整備により、域内から、名古屋港、セントレア、名古屋駅へのアクセスが向上し、当地域の経済・文化が活性化、人の交流が拡大され、都市の魅力がますます広がっていくことを願っている。

(新開委員)

- ETC利用履歴の発行プリンターに関しては、設置場所が少ないので、今後設置について考えていきたい。
- 現金のお客様への対応についても、お客様の声をきめ細かく分析しながら対応を進めていきたいと考えている。

(中村委員代理 野原専務理事)

- この1年間、コロナの影響について、収入面のみならず、修繕など作業の面でも大変だったかと思うが、そうした中でも、説明にあったような様々な施策を実施し、また償還についても計画どおり進んでいるということで、公社の皆さんの努力を多としたいと思います。
- 対距離料金制については、順調にスタートしているとはいえ、いくつか課題もあるとのことで、またコロナの影響で都市の交通量が落ち込んでいるという状況でもあり、利用状況について引き続き注視して頂きたい。
- 次期中期経営計画の策定については、都心アクセス関連事業を着実に進めて頂くとともに、キーワードに挙げているカーボンニュートラルや自動車産業の“CASE”、Ma a Sなどの動きについて、環境対策やインフラ整備といった面で、公社としてどのような貢献ができるのか、よく検討をお願いしたい。
- 金融面についても、金融機関からの融資や市場からの資金調達を行う際に、環境への取り組みが重要視されるようになってきており、公社においてもしっかりと取り組んで頂きたい。

(大村会長)

- 本日、説明のあった新たな料金体系への移行状況については、今後とも交通量の推移などをよく注視していただくようお願いしたい。
- また、現在取り組まれている都心アクセス関連事業や、次期中期経営計画の策定など、引き続き関係機関とよく調整のうえ進めて頂きたい。
- 名古屋高速道路は、名古屋都市圏の経済・産業を支える基幹的な道路網であり、今後も期待される役割をしっかりと果たしていけるよう、皆様の一層のご支援をお願い申し上げたい。